「授業構想力評価スタンダード（図画工作科・美術科）」

観点	段階	段 階 1	段 階 2	段 階 3
A．授業構想力				
1．学習者の把握				
1) 学習者の実態把握		<ul style="list-style-type: none"> ・クラス全体として学習に取り組む姿勢を把握している。 ・授業を実施する学校種、学年に該当する発達の段階について基本的な知識を有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の子どもの実態（学習意欲、理解度、興味・関心、協調性）を把握し、指導上配慮することができる。 ・クラス全体の動向と個々の学習者の傾向をともに把握し、コミュニケーションの流れを予測することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが生活する地域社会の特色、地域の抱えている問題点などを把握し、授業構成に活かしている。 ・保護者や旧担任との連携を密にして、個々の学習者の学力向上に努めている。
2) 学習への構え・ルールづくり		<ul style="list-style-type: none"> ・授業者の話をよく聴く、板書をよく見て理解する、友だちの意見をよく聴くなど授業を受けるための基本的なルールを生徒に示し、身に付けさせている。 ・授業を受けるために必要な画材や道具を忘れずに持参するルールづくりをしている。 ・必要があれば作業着に着替えて授業に臨ませるルールづくりをしている。 ・あとかたづけを行なうルールづくりをしている。 ・課題や宿題を期日までに提出するルールづくりをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中、積極的に発言するルールづくりをしている。 ・授業中、友だちと協力するルールづくりをしている。 ・配布資料をファイル化して保存し活用するルールづくりをしている。 ・作品の掲示に協力するルールづくりをしている。 ・作品を保存して、必要があれば自宅で飾る・使うなどのルールづくりをしている。 ・教師による制作プロセスの実演に際して、適切な陣形を組むルールづくりをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予告した授業内容にそって机や椅子の配置を整えるルールづくりをしている。 ・日常的に、教室、廊下、校庭などの環境美化に努めるルールづくりをしている。 ・積極的・主体的に、友だちや教師とディスカッションを試みる学習の構えを個々の学習者に習得させている。
2．目標の分類と設定		<p>学習指導要領に示された各学年の目標をふまえて、観点別学習状況の4観点から指導目標を設定することができる。</p> <p>造形への関心・意欲・態度、発想・構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力</p>	<p>学校教育目標及び学習指導要領の教科目標との関連から子どもの造形的発達を見据えたうえで、題材の目標や、授業毎の目標を設定することができる。</p>	<p>指導要領の変遷を理解し、指導要領をめぐるさまざまな言説も参照しながら、今後の改訂も視野にいれて、指導目標を設定することができる。</p>
3．授業構成				
1) 教育内容の構成		<p>学習指導要領の領域の観点から、教科書に掲載されている題材の教育内容を読み取ることができる。</p>	<p>教科書の題材を子どもたちの実態に即して吟味し、内容を練り直すことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の教科内容に基づき、子どもの身近な事物 ・現象から、あるいは芸術文化のなかから教育内容を導き出すことができる。
2) 教材(題材)の選択・構成		<p>子どもにとって明快な目標を掲げた題材を選択し、適切な題材名を与えている。</p>	<p>目的と内容において題材と題材の間に、難易度を考慮した整合性のある関係をつくりだしている。</p>	<p>子どもが主体的に取り組む題材を開発し、学力形成の観点から、題材と題材の間に緊密な関係をつくりだすことができる。</p>

観点	段階	段階 1	段階 2	段階 3
3) 授業過程の組織		導入・展開・終結の流れがみえる授業過程をつくりだしている。	発問などを工夫することで、主体的な表現活動や鑑賞の活動に発展する授業過程をつくりだしている。	主体的な探求活動を促すように問いの表現や構成を工夫するだけでなく、学習者の表現と芸術・文化との接点を探究する授業過程を組織している。
	4) 学習法・学習形態の選択・組織	子どもの学習意欲を喚起し、発言や活動を促す学習法・学習形態を選択し組織している。具体的には机の配置・掲示物などを適切に組織している。	いろいろな学習方法の特質をふまえて、目標・教育内容からみて、効果的な学習法・学習形態を選択し組織している。具体的には、班編成や制作場所の設営などを適切に組織している。	子ども自らが発見した問題解決の方法を励まし、助言を与え、効果的な学習法・学習形態を定着することができる。
4. 題材の指導計画（授業計画）				
1) 題材（授業）の指導計画の作成		題材の目的に基づく学習内容の分節化を図り、第一次から第一次まで、適切に、学習の主題の設定と時間数の割振りを行なうことができる。	目標と結びつけて、題材の各主題、指導過程、時間配分の関係性を明示するとともに学習者に対する評価の観点から、指導計画を組むことができる。	・学習課題に対する子どもの多様な追究のプロセスを考慮し、複線化した学習活動を想定し、指導計画を作成している。 ・具体的には、制作における手順の相違、取り組みや仕上げの速度の違いなどを想定した指導計画を作成することができる。
	2) 学習指導案の作成	・学習指導案の一般的な形式項目を理解し、適切に記述することができる。 ・授業過程が客観的に想定できる授業計画を立案し、学習指導案に反映させることができる。 ・個別の指導と学級全体の指導を複眼的に見据えた学習指導案を作成することができる。	・教材（題材）の特性・学習者の活動・指導の方法が明解に理解できる記述の方法を習得している。 ・表現領域と鑑賞領域の目標と関連づけて授業を構想し、導入部・展開部・終結部に分節化された授業計画を作成している。 ・個と集団での学習活動が相互に影響しあうことを理解し、積極的に両者を関連付けた学習指導案を作成することができる。	・多様な見方・感じ方に基づいて展開する子どもの考えの深まりや学習活動の発展性を十分に予測した学習指導案を作成することができる。 ・造形文化にたいする幅広いものの見方や考え方を育てるとともに、主体的な表現や鑑賞を促す学習指導案を作成することができる。
	3) 学習評価計画の作成	学習指導要領に示された各学年の目標をふまえて、観点別学習状況の4観点について、「おおむね満足できる状況（B）」の評価規準を設定し、評価活動を計画している。	学習指導要領に示された各学年の目標をふまえて、観点別学習状況の4観点について、評価規準を設定し、具体的評価規準を想定した評価活動を計画し、さらに、授業目標、授業構成、授業展開が緊密に結びついた評価項目と評価活動およびその方法を計画し明示している。	・子どもが取り組む学習問題や学習活動に即して、診断的評価（指導前の評価）、形成的評価（指導過程での評価）、総括的評価（単元終了時のまとめの評価）、子どもの自己評価などの評価活動を適切に選択し計画している。 ・評価のための多様な手立てを工夫している（作品、発言、ノート、カルテ、プリント、ペーパーテスト等）。